



## SACLA加速器における 電子バンチ振り分けシステムの開発

原 徹、武部 英樹、稲垣 隆宏、大竹 雄次、田中 均 RIKEN SPring-8 Center 深見 健司、近藤 力

**JASRI** 







- XFELはシングルユーザー施設であるが、複数BL運転は、 実験装置入れ替え時間などのデッドタイムをなくし、電 子バンチ振り分けによるBLの同時運用で利用効率向 上が可能。
- 但し複数BL運転では、各利用実験で異なる波長のレー ザーを使うことが予想されるため、電子バンチエネル ギーの制御が不可欠。
- 将来のSPring-8アップグレード計画において、SACLAを 低エミッタンス入射器として用いる場合にも、電子バン チ振り分け技術の確立は必須。

# Near future plans of SACLA

SACLA







電子バンチ振り分けシステム



- 線型加速器終端にあるDC偏向電磁石を用いてビーム軌道を±3° 偏向させることにより、現在はBLを切り替えている。
- 2015年1月より、DC偏向電磁石をキッカー+DCツインセプタム電磁石に置き換え、最大60 Hzの電子バンチを各BLへ振り分ける。









Stability of power supplies (p-p)

- Kicker magnet  $3 \times 10^{-5}$  (target  $1 \times 10^{-5}$ ) = 0.3 µrad(0.1 µrad)
- DC septum  $1 \times 10^{-5} = 0.4 \mu rad$  (design)
- DC bend of BL2  $3 \times 10^{-6} = 0.15 \mu rad$  (achieved)

Orbit stability  $1 \mu rad @BL3 \rightarrow 1.13 \mu rad (p-p) @BL2$ 







• キッカー電磁石および電源は製作済み



#### 0.35 mm silicon steel

H. Takebe et al., SUOL01



PWM (Pulse Width Modulation) type,320 A-150 V,60 Hz trapezoidal waveform,FET 8-unit in parallel,made by Nichicon Kusatsu.



H. Takebe et al., SUOL01

# ゲート型NMRを用いたパルス磁場測定





SACI



- A gated NMR for the measurements of pulsed fields.
- Resonant frequency is scanned within 0.6 ms.
- Gate timing can be synchronized to an external trigger.
- Readout every 0.5 sec.
- Accuracy 2×10<sup>-6</sup>.



Developed by Echo Denshi.



## キッカー電磁石の磁場安定性





磁場安定性は ±15 ppm以内

- Kicker was operated at 15 pps.
- Each data point represents the average of 7.5 shots.



- 930 A-10 turns for one septum with the maximum field 7400 G.
- Expected leakage fields are about 0.2 G and 3 G with and without magnetic shield plates, when one septum is on. They can be further reduced with both septums on.
- DC twin-septum is currently under fabrication.









 利用実験で使用するレーザー波長がビームライン間で 異なる場合、アンジュレータの波長調整範囲には制限 があるため、電子バンチ毎にビームエネルギーを最適 化する必要。



従来の施設デザイン(SwissFEL、PAL XFELなど)





- ・線型加速器のいくつかのRFユニットをビーム繰り返しと異なる周 波数で動作させることにより、電子バンチ毎にエネルギーを制御。
- キッカー電磁石のバンチ振り分けと組み合わせ、最適なエネル ギーを持つ電子バンチを各BLへ供給。



ビームエネルギーはBL3アンジュレータ上流のシケインで測定。



- Bunch repetition 10 Hz.
- 8 C-band RF units (16 accelerator structures) are operated at 5 Hz.











- 電子ビームエネルギー6 GeV、電荷量100 pC程度。
- トップアップ時の入射器運転コストの削減し、高効率入射を達成する。
- SACLAからXBSTを通し、シンクロ出口までのビーム試験は終了。
- ・ CSRによりエミッタンス悪化を防ぐため、ピーク電流の制御が課題。









- 2本目のXFELビームラインBL2を、2014年夏期停止期間
  に設置、秋よりDC偏向電磁石を用いてcommissioning。
- 2015年1月より、キッカーとDCツインセプタムを用いた 電子バンチ振り分けおよびビームエネルギー制御の試 験を開始。
- SPring-8-IIへのビーム入射に向けての課題
  - RFユニットのオンオフのみならず位相をバンチ毎に変え、ピーク電流を制御する技術の確立。
  - 任意のタイミングで行う必要。
  - 常時入射には、信頼性や再現性の向上が不可欠。